

在宅医療・介護に関するアンケート調査結果の概要

住民に在宅医療と介護について考えてもらうとともに、今後の取り組みの検討資料にするため、在宅医療・介護に関するアンケート調査を8月から11月の期間、関係市町のイベントや事業で実施した。

回収件数は目標の1,000件を大幅に上回る1,487件であった。

- ・「在宅介護」の認知度は、全体では93.1%と高かったが、具体的な介護制度の仕組みを聞いた介護認定の認知度は4.7ポイント低い88.4%であった。また、「在宅医療」の認知度は、66.8%で、「在宅介護」より26.3ポイント下回った。
- ・「在宅医療」「在宅介護」のイメージを聞いた設問では、サービスの内容が分からないと答える方や、在宅医療・介護に心配や不安を示す回答、イメージできないとの回答が少なかった。
- ・病気や要介護になった場合の希望として、70代以上では1位「病院へ入院するか、施設に入りたい」46.1%、2位「在宅医療、在宅介護を使って家で暮らしたい」22.7%、3位「配偶者と家で暮らしたい」16.3%の順であった。
- ・在宅医療、在宅介護を受けるとしたら気になることとして、70代以上では、1位「家族への負担」44.5%、2位「経済的な負担」35.5%、3位「病状が急変したときの対応」27.2%の順であった。
- ・今後、北空知で「在宅医療」や「在宅介護」のため必要と思うこととして、全体では、「容体の急変時の入院が可能な体制」66.2%、「24時間いつでも診てもらえる体制」65.1%、「家族の負担軽減のための介護サービス等の充実」61.3%、「不安を感じた場合に相談できる窓口」53.1%、「定期的に訪問診療・訪問看護が受けられる体制」49.7%、「地域の医療・介護資源をわかりやすく掲載した一覧・地図」42.2%、「地域住民同士の声かけや助け合いができる地域づくり」40.1%、「在宅医療に関する普及啓発」31.8%の順であった。
6割以上の方が「入院可能な体制」「24時間の体制」「介護サービス等の充実」の項目を必要なものとしてあげた。

⇒「在宅医療」「在宅介護」の認知度等については、アンケートの対象者がイベントや事業に参加できる方からの回答のため、「知っている方」が多かったと考えられ、地域全体の認知度等としては調査結果よりも低くとらえる必要があり、地域住民への周知、啓発は一層必要と判断される。

- ・また、「在宅医療」「在宅介護」に対する住民の不安や期待に応えるサービスの維持確保や、施策の検討が必要である。特に人口減少・労働力不足が続く中、医療・介護を担う人材の維持・確保が大きな課題である。